

県立図書館だより

平成24年10月

青森県立図書館報 第14号

セミナー等での展示・貸出

県立図書館では、行政・産業支援サービスの一環として、県が主催するセミナーや講演会等の会場に出向き、参加者にセミナー等の内容に関連する図書、雑誌記事等のリストの提供を行ったり、関連図書の展示、貸出を行う図書館サービスを実施しています。

(提供するリストの例)

おやくにたちます！青森県立図書館

県立図書館には、様々な専門図書や資料があります。また、県立図書館で所蔵していない図書についても、図書館ネットワークを通じて、幅広く利用者へ提供することができます。

今回は、「創業・起業・ビジネス」に関連する図書等をご紹介します。

これらの図書は、お近くの図書館・公民館図書室等を通じて取り寄せて借りることができますので、是非ご確認ください。

また、県立図書館に直接して直接借りた図書についても、お近くの図書館・公民館図書室等に返却できる「遠隔地返却サービス」を実施しておりますので、借受けの際に県立図書館窓口職員にお申し込みください。なお、図書の所蔵や貸出等に関するご質問等につきましては、参考・郷土室のカウンターのほか、電話・FAX・E-mailでも受け付けいたしますので、お気軽にご相談ください。

【リストに関するお問い合わせ】 青森県立図書館 企画連携課 電話：017-739-1456
 【図書の所蔵・貸出等のお問い合わせ】 青森県立図書館 参考郷土室 電話：017-723-4311
 e-mail: ccsinfo@lib.pref.aomori.jp FAX:017-739-1737

番号	本のタイトル	副タイトル等	著者名等	出版社等	刊年
1	社会起業入門	社会を美えるという仕事	ニボルグ書房	神野 直彦	2012.4
2	あなたも社会起業家！	走る・生きる十五のストーリー	富山屋インターナショナル	油井 文江	2012.8
3	社会起業家になりたいと思ったら読む本	未来に何ができるのか、いま必要なのか	ダイヤモンド社	デービッド・ボーンズ アイン	2012.8
4	日本を再興した起業家物語	知られざる起業家精神の源流	日本経済新聞出版	加来 耕三	2012.8
5	在日コリアンの経済活動	移住労働者、起業家の過去・現在・未来	不二出版	李 淳任	2012.2
6	いじめるための起業事典	権者が事業が軌道に乗るまで、必ず直撃する侮み攻撃!	明日香出版社	出口 秀樹	2012.2
7	ゼロから始める起業のお金必ず知ってほしいこと100	お金の知識が成功のポイント!	小坂 英雄	あさ出版	2011.9
8	起業革命	「スタートアップ」のブームが広げられる事業創出のノウハウ	田口 弘	東洋経済新報社	2011.8
9	起業をするならこの1冊		馬渡 晃	自由国民社	2011.7
10	辺境から世界を恐る	「ソーシャルビジネス」が生み出す「新しい起業家」	加藤 健生	ダイヤモンド社	2011.7
11	北辺のいっしょ銀 第1巻	究明・誰も音程係の人・起業	相馬 敏光	中長印刷出版部	2011.7
12	起業・開業手続き・許認可のしくみがわかる事典	独立開業者必携	大門 剛亮	三務社	2011.6
13	起業家・ベンチャー企業支援の実務		日本公認会計士協会東京会	ぎょうせい	2011.3
14	日本の田舎は宝の山	農村起業のすすめ	曾根原 久司	日本経済新聞出版社	2011.12
15	起業の音		江波戸 啓夫	講談社	2011.1
16	生き方としての老老所	起業する若者たち	三好 春樹	プリコラージュ	2010.9
17	中国で輝ける	大陸で輝く日本人起業家たちへ学ぶ	田中 宗美	新報社	2010.9
18	起業の教科書	次世代リーダーに求められる資質とスキル	北尾 吉孝	東洋経済新報社	2010.8

「この本を借りたい」と希望する参加者や、「関連する本がとても役に立った」という声もありました。



当館の利用者カードがなくても、その場で作成し、借りていくことができ、[遠隔地返却サービス](#)もご利用いただけます。

当館では、県民に役立つ図書館という視点に立ち、行政・産業支援サービスの強化を目指し、今後も様々な事業を実施してまいります。

目次

セミナー等での展示・貸出..... 1

「高校生による、子どもの読書活動アシスト」事業始まりました。..... 2

こんなレファレンスがありました..... 3～4

子どもの本の紹介..... 5

郷土資料の紹介..... 6

近代文学館資料の紹介..... 7

カウンターから一言..... 8

「高校生による、子どもの読書活動アシスト」事業 始まりました。

県立図書館では、県内の高校生の皆さんと一緒に、子ども達への読み聞かせや朗読など、図書館活動を推進する事業を行っています。

児童閲覧室で毎月テーマを決め、飾り付けと一緒に子ども達に本を紹介してきた「テーマ展示」についても、9月からは、もっと「楽しそう!」「たくさん読んでみたい!」と思ってもらえるよう、高校生の皆さんが創り出す、素敵な本の世界をディスプレイしてもらうことになりました。

第一回目は、県立青森高校の女子高生二人組“AKG2”さんが、「おいも」をテーマに、子ども達のためにかわいいディスプレイを創ってくれました。



テーマ展示「おいも」(8月23日~9月26日)

10月からは、弘前実業高校、青森東高校、弘前工業高校、光星学園野辺地西高校、田子高校の皆さんが、ハロウィンやクリスマス、来年の干支「へび」をテーマに作ってくれます。

どんな本の世界が創り出されるのか…皆さん楽しみにしてください。

●お問い合わせ●

〒030-0184 青森県青森市荒川字藤戸 119 の7
青森県立図書館 参考郷土室 (担当: 清水)
電話 017-729-4311 / FAX 017-762-1757



こ んな レファレンスがありました



(第14回)

2013年(平成25年)のNHK大河ドラマが「八重の桜」と決まり、既にクランクインしています。主人公の新島(山本)八重の、スペンサー銃を手に奮戦した戊辰戦争の姿や、その後の生き方に注目が集まり、八重や戊辰戦争前後の会津藩に関する書籍の出版も相次いでいます。

八重は、同志社大学創立者となる新島襄と結婚して新島姓となりますが、それ以前に、会津藩校・日新館の教授をつとめる川崎尚之助と結婚していました。この川崎尚之助が斗南に移住していたことから、最近、斗南藩に関するご質問を幾つかいただいています。

今回は、そのなかからの紹介です。

【質問】 斗南藩の「斗南(となみ)」の由来について知りたい。

「斗南」の名称について関心を持ち、お調べになった方も多いのではないかと思えます。『青森県百科事典』(東奥日報社 1981)の「斗南藩」の項を見ると、藩名について、「～中国の詩文「北斗以南皆帝州」に由来するという。～」と紹介されています。

由来については、斗を図と寓して、無念さをこめて「凶南(となん:大志をいただき大事業を試みること。)」の志を示した。或いは、明治政府の巨大な網に捕まった鳥と寓意し、古語の「トナミ:鳥を捕らえる網のこと」に自嘲、呪詛(じゅそ:恨みに思う相手に災いが起こるよう神仏に祈願すること。)の思いを込めた。など諸説あります。

ただし、それらは異説を想起したもので、他の多くの資料は、唯一古くから由来として伝えられている「北斗以南皆帝州」(北斗以南は皆、天子の地である。)説を挙げています。では、その出典はどうでしょう。

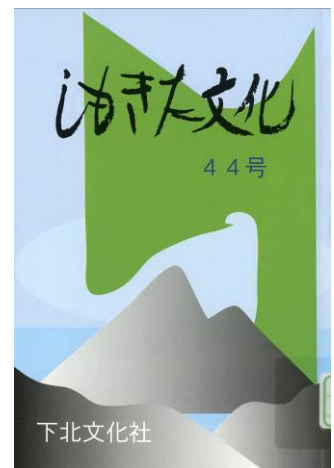
斗南藩研究の第一人者である葛西富夫氏は、著作『北の慟哭』(青森大学出版局、1980)のなかで、「～下北地方の郷土史家故笹沢善八氏(筆名は魯羊)は、長い間、中国の詩文「北斗以南皆帝州」から採ったものであると主張し、現在では一応定説となっている。～」と書いています。ところが、笹沢氏の『宇曾利百話』(1953)や『田名部町誌』(1935)など、どの著作にも「中国の詩文」という記述はありません。

葛西氏は近年、このことを尋ねた方に笹沢氏を訪ね伺ったもので、著作中の記述ではないこと、また、笹沢氏自身から具体的な出典を確認できなかつたと答えられたそうです。

どうやら、「中国の詩文」であるという笹沢魯羊氏の説自体も検証する必要がありそうです。残念ながら、膨大な漢文・漢詩文の出典を、その一句から調査できる書籍がありません。

そこで、長きに渡り注目されてきた「斗南」ですから、「北斗以南皆帝州」の出典を研究し、発表されたものがないか調査を試みました。

すると、『しもきた文化 44号』(下北文化社 2010)に、「斗南藩命名の謎 - 「北斗以南皆帝州」の出典を探る」と題した竹浪和夫氏の著作がありました。



竹浪氏は、その中で以下について明らかにしています。

- 1 笹沢氏が由来とする以前から「北斗以南皆帝州」として知られていたこと。
 - ① 笹沢氏が「北斗以南皆帝州」を由来として書いたのは、昭和10年の『田名部町誌』まで遡ること。
 - ② その30年ほど前に発行された『大日本地名辞書』（富山書房 1907）の「田名部」の項には、「斗南とは、「北斗以南皆帝州」の義にて、北遷の新藩に命名す。」と記されていること。なお、この辞典でも出典は明らかにされていません。
- ※ 笹沢氏が郷土史研究を始めたのが明治40年頃ですので、既に、それ以前には由来として知られていたこととなります。
- 2 会津藩士が歌った詩の一句に、「樺太以南皆帝州」という「北斗以南皆帝州」に酷似したものがあること。

これは、相田泰三氏（会津史の研究者）の『斗南藩史（未定稿）』（1971 むつ市立図書館蔵 上梓はされていません。）の中の「函館病中有感」という秋月悌次郎の詩の一句です。

この詩について『落花は枝に還らずとも 会津藩士・秋月悌次郎 下巻』（中村彰彦著 中央公論新社 2004）では、唐書の天下第一の人を表す「北斗以南一人而已」の言い換えであることに気がついた広沢富次郎が、「斗南」案を提出したのではないかと書いています。しかし、「北斗以南皆帝州」の出典について論じた史家はいないと書いています。

竹浪氏の調査は更に徹底したものでした。

中国の詩文を調査できる「書籍」はないのですが、近年のインターネットの普及、データベース構築・公開には目を見張るものがあります。中国の古典も、主要なものはデータベース化され、語彙から検索できるようになってきています。

その検索結果として竹浪氏は「北斗以南皆帝州」の使用例はなく、唯一「北斗以南」に合致する例として、先に挙げた「北斗以南一人而已」があったとしています。

当館でも、台湾中央研究院の漢籍電子文献で検索しましたが、同様でした。

「斗南」の由来については、

- 1 唯一、古くから伝えられているのは「北斗以南皆帝州」をその意味としたもの。ただし、その出典は明らかではないこと。
- 2 中国の詩文であると云われているが、中国の詩文と確認できなかったこと。
- 3 会津藩士秋月悌次郎が「樺太以南皆帝州」という酷似した詩文を残していること。

以上をお伝えしたうえ、竹浪氏の著作「[斗南藩命名の謎 — 「北斗以南皆帝州」の出典を探る](#)」とそこに書かれている仮説「北斗以南皆帝州」は、「中国の詩文」の一部である「北斗以南」と「秋月の漢詩」の一部である「皆帝州」を合体させたものではないか。と紹介して終了としました。

竹浪氏はこの著作に「エッセイ」と冠し、小文・小話と書かれていますが、その調査方法・過程は、論文・レポートを書こうとする学生、また、調査相談に携わる図書館職員も是非、参考としたいものです。

● レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室

電話 017-729-4311 FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

子どもの本の紹介(第14回)

本年は『古事記』^{へんさん}編纂1300年です。『古事記』は、天武天皇の命令で作られ、712年(和銅5年)に完成した日本最古の書物です。

『古事記』には、日本のはじまりの物語、私たちが子どもの頃から聞いている神話が数多く書かれています。

そこで今回は、『古事記』に書かれている神話を一部ご紹介します。

『日本の神話 第4巻 いなばのしろうさぎ』

赤羽末吉／絵 舟崎克彦／文 あかね書房 1995(児164J ^{フナギキヨ} (4) A01B)

^{すさのお}須佐乃男の子孫に、^{おおくにぬし}大国主の命^{みこと}という、気立てのよい神さまがいました。

命には、兄弟の神が八十人もいましたが、因幡の国の姫をお嫁さんにするため、みんなが出雲国を出発しました。しかし、命は兄弟たちの荷物を背負っていたので、みんなより遅れていきました。

やがて、兄弟たちは皮がはがれた一羽のうさぎと出会い、からかい半分に、海の水でからだをあらって、風にふかれるよう教えました。その通りにしたうさぎは、傷がひどくなり、泣きさけんでいたところに、命が通りかかりました。



『心をそだてる松谷みよ子の日本の神話 決定版』

松谷みよ子／著 講談社 2010(児913J ^{マツタニミ} A08A)

『やまたのおろち 日本神話』前編 後編

田島征彦／画 川崎大治／脚本 童心社 1978(児静画KC ヤマ 集密)

『絵で見てわかるはじめての古典 1巻 古事記・風土記』

田中貴子／監修 学研教育出版 2012(児大910J ^{エテミテ} (1) A03B)

『ヤマトタケル』

那須正幹／文 清水耕蔵／絵 西本鶏介／監修 ポプラ社 2005
(児E ^{シミス*} A04B)

『古事記』編纂1300年を記念し、出雲大社がある島根県では「神話博しまね」と題し、神話の里巡りのほか、さまざまなイベントが県内各地で行われています。

当館児童閲覧室では、読書週間に合わせ、10月26日から「のぞいてみよう！神話の世界～古事記編纂1300年～」というテーマで、『古事記』や神話の本を展示します。この機会に、日本最古の物語『古事記』やたくさんの神話の世界を是非のぞいてみてください。

郷土資料
の紹介
(第14回)

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様に広くご利用いただいております。

このコーナーでは、当館所蔵の郷土資料の中から、普段はあまり人目に触れる機会の少ない貴重な資料などをご紹介します。

去る平成 24 年 4 月、青森県を代表する木版画家の一人、加藤武夫氏が 81 年の生涯を閉じました。

1930（昭和 5）年、青森市に生まれた加藤氏は、旧制青森中学で美術講師を務めていた版画家・佐藤米次郎（1915～2001 青森市出身）の影響を受け、版画の道に進みます。

元々水彩画を描いていたという加藤氏は、その色彩感覚豊かな多色刷り木版画が高く評価され、東奥展で佐藤尚武参議院議長賞を受賞。さらに日本版画協会展や日本版画院展でも入選を重ね、1980（昭和 55）年からは日本版画院の理事を務めました。

また、1955（昭和 30）年には青森県版画会を結成して初代事務局を務め、版画集の編集発行や版画会展の企画開催に当たるなど、青森県の版画文化を守り育ててきたことでも知られています。

加藤武夫氏のご冥福をお祈りするとともに、追悼の意を込めて、今回は『青森版画』（青森県版画会 1955-）をご紹介します。

青森県版画会の結成とともに創刊されたこの版画集は、棟方志功の装画と題字で飾られた帙に、棟方末華（1913～1995）や佐藤米次郎らを含めた有志の作品が収められ、毎号数十部のみ発行されているものです。

版画王国青森県の歩みを知るための貴重な資料ともいえる、この『青森版画』について、当館では第 5 号から所蔵しており、いずれも貴重資料庫に保管しております。

館内でご覧いただくことができますので、ご希望の方は当館職員にお申し出ください。



近代文学館資料の紹介（第14回）

「少年倶楽部」昭和2年5月号

青森県近代文学館では、10月13日から11月25日まで企画展「加藤謙一と佐藤紅緑」を開催しますが、展示資料の中から、この「少年倶楽部」昭和2年5月号を御紹介します。この号は、全国の少年達を熱狂の渦に巻き込んだ弘前出身佐藤紅緑の少年小説「あゝ玉杯に花うけて」第1回が掲載された記念すべき号です。



雑誌「少年倶楽部」は大正3年に創刊されましたが、当初は他の少年誌の陰に隠れたマイナーな存在でした。その「少年倶楽部」を圧倒的な発行部数を誇る伝説的の少年誌に育て上げたのが弘前出身の編集者・加藤謙一でした。

大正7年、22歳の加藤謙一は、少年雑誌の編集者を志して上京し、大日本雄弁会講談社（現講談社）に入社を果たすや、その人柄と熱意が社長野間清治の目にとまり「少年倶楽部」編集長に大抜擢されます。加藤の奮闘で「少年倶楽部」は着実に発行部数を伸ばしますが、大正14年、人気画家のライバル誌移籍により、発行部数が一挙に4割減る大ピンチを迎えます。加藤はこの事態を打開すべく、同郷の作家佐藤紅緑の起用を思い立ちます。当時佐藤は53歳、知る人ぞ知る大衆小説の大家でした。この佐藤に少年小説を書かせようとしたわけですが、この申し出に佐藤は「おれにハナたれ小僧の読む小説を書けというのか！」と激怒したといわれます。しかし、加藤の誠実な説得に心を動かされ、昭和2年5月号から「あゝ玉杯に花うけて」の連載が始まります。これが大ヒット、連載直後からものすごい数の熱狂的な手紙が編集部には寄せられ、「玉杯」の人気であつという間に発行部数は回復し、翌年1月号には前年よりも15万部増の45万部に達したといわれます。佐藤はその後も「少年倶楽部」に作品を連載し、気がつけば少年小説の大家として名を残すことになりました。

一方、加藤謙一は、佐藤の他にも吉川英治、大佛次郎をはじめとする錚々たる作家を起用し、さらには「のらくろ」などの漫画掲載、魅力的な附録などによって全国の少年達の心を掴み、編集長を退く昭和7年1月号には他誌を圧倒する65万部という発行部数を記録するに至り、後に昭和の名編集長と称されました。

カウンターから一言 (第14回)



当館では、利用者の方々によりよいサービスを提供するため、本年度から**図書館ボランティア**の方々のご協力をいただいております。

4月開始の**資料配架活動**に続き、6月からは**利用案内活動**が始まりました。

図書館ボランティア利用案内活動とは？

当館の利用の仕方などについて、ご質問があった場合などに、わかりやすくご案内するインフォメーション的な活動です。

例えば、初めて利用者カードをお作りになる方へ、貸出の手続きの方法や返却場所、貸出期間の延長方法などをていねいにご説明します。そのほか、資料検索機の使い方など、館内での利用方法についてのご質問にもお答えします。

なお、貸出・返却・登録の手続き、資料検索サービスなどの対応は職員が行いますので、ご質問の内容によっては、図書館職員にお取り次ぎをいたします。

ボランティアの方は、専用のエプロンを着用し、胸に「案内」のプレートつけています。

一般閲覧室の「**利用案内コーナー**」で皆様をお待ちしておりますので、お気軽にお尋ねください。

●活動日：**土曜日、日曜日**

●活動時間：**午前10:00～12:00、午後1:30～3:30**



↑
「子育て支援コーナー」
をご案内中

～ 活動の様子 ～



「利用案内コーナー」でお待ちしています。



←
初めて利用される方に
説明中

編集後記

児童閲覧室で、毎月実施しているテーマ展示のディスプレイ（エントランス側及び南側のガラス部分）作成を、9月から高校生が行っていますので、高校生の新鮮な作品をお楽しみください。

また、今年は、「古事記」編纂1300年を迎えます。児童閲覧室では、『大国主神』『建速須佐之男命』『倭建命』など古事記に記されている神々の本の展示を行います。皆様のご来館を心からお待ちしております。